

目指す病院像の見直しについて

目指す病院像については、第1回策定委員会において、どのような病院や施設を整備するのかという目標として、基本構想を基に提案し、決定したところである。

しかしながら、その後の検討作業により、介護老人保健施設みなみかぜの移転の中止や、新病院における機能・規模が決定したことにより、見直す必要が生じたもの。

【見直し内容】

肝属郡医師会立病院は、南隅地域における唯一の入院施設を整備し、救急患者を受け入れている、急性期・回復期を含むケアミックス病院である。

新病院は、これまで担ってきた機能を基本に、救急やがん診療、へき地医療などの地域医療に必要な医療を担い、~~地域医療支援病院~~へき地医療拠点病院として地域の診療所を支援する。

また、鹿屋地区の急性期病院と連携し、回復期や難病患者を受入れ、地域の診療所とともに在宅療養支援病院として患者の自宅復帰を目指す。

加えて、~~併設する介護老人保健施設と一体化して~~地域の介護施設と緊密な連携を図り、医療・介護事業を推進するとともに業際事業に注力し地域住民サービスの更なる向上を目指す。

これらの視点から、次の4点を大きな目標とし、「~~南隅地域の医療・介護の拠点施設として~~、地域住民に信頼され、安心して医療を受けられる病院を目指して」整備を行うものとする。

- ① ~~急性期~~ 回復期を軸に急性期・慢性期を含むケアミックス病院
- ② 機能を絞り整備費を軽減したコンパクトで効率的な施設
- ③ 整備後の人口減少等にも対応できるよう、柔軟な運用が可能な施設
- ④ ~~併設する介護老人保健施設~~地域の介護施設と連携した医療・介護融合拠点型の・福祉サービスの一元的な提供が可能な施設